

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年6月(2003年) No. 450

悲報

安居良枝さんが他界

6月3日ご逝去 心臓手術の後、意識戻らず

今でもまだ信じられません。先々月の4月例会にもご出席になり、作品出品もなされ、また受付業務もやって頂き、帰りの二次会でも明るい笑顔を見せておられました。その例会のあと、心臓の手術をされるとお聞きしていましたが、最近の心臓手術は以前に比べて各段に進んでいるので、大丈夫元気になって帰ってこられるもの、とばかり思っていました。手術後の経過が思わしくなく、意識を回復することなく6月3日の午後4時少し過ぎにお亡くなりになったということです。大変残念なことで、今後益々期待される「わがOMCの希望の星」ただだけに、ぼっかり穴のあいた気持ちです。遺作は4月例会に出品された「ささやきの小径」6分の作品でした。暖かい彼女らしい気配りのある作品でした。全国規模の数々のコンテストにも入賞されていますが、最近では飛騨高山ビデオコンテストで審査員特別賞(蘇れ、法善寺横丁)受賞の輝かしい実績があります。

今後は良枝作品が見られないと思うと大変残念ですが、天上でも良枝さんビデオを楽しんでおられる様に思えてなりません。

なお、お通夜は5日19時よりご自宅近くの宝林寺会館で、葬儀は6日11時より同所にてしめやかに取り行われました。OMCからは世話役の方々をはじめメールで悲報を知った方々がかけつけて来られお見送りいたしました。謹んで安居良枝さんのご冥福をお祈り申し上げます。

6月例会のお知らせ

6月例会は、28日(第4土曜日)18時よりいつもの梅田・大阪第2ビル5階、大阪市立総合学習センターにて開催します。今月は日野撮影会作品コンテストを行います。残り後半の部は時間のあまる限り一般作品も上映しますので作品をお持ち下さい。撮影会参加者はぜひ作品を出品されるようお願いいたします。なおコンテストの採点は出品者以外の方で行いますので、よろしくお願ひします。多数のご出席をお待ちしています。

◆公開映写会は10月を予定、作品選定は7月例会までか、遅くとも8月例会分まで

大阪アマ連と大阪市立中央図書館との共催になるアマチュア映像発表会は、例年通り11月と思われますので、OMCの映像フェスティバルは10月を予定していますが、会場確保の点では不明な面があります。

会場確保が10月の初旬になったとすると9月はじめにはプログラムの印刷をしなくてはなりません。8月例会までの作品を待っていただけるかどうか不安の面があります。出品予定者で制作中の方は完全な作品に仕上がってなくてもよいですから、できるだけ7月例会までに見せていただくよう希望します。

5月例会のレポート

今月は出席常連の安居夫妻の姿がなく淋しい思いをしましたが、かわって病氣静養だった金子さんがお元気なお姿を見せられました。司会は関さん、書記、有村さん、デッキ係、増池さんと江村さん、受付兼照明係は渡辺さんと奥さんの担当でした。

◆出席者：関、江村、有村、松本、森田、増池、奥、合原、渡辺、岡本、河合、前田、藤原、森、今井、玉井、江藤、森下、吉岡、華岡、石垣、中尾、森口、山本、西村、金子の皆さん（敬称略）の26名と作品本数11本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村博世話役です。）

1) 八幡堀の春

玉井 勺さん 4分48秒

滋賀県近江八幡の日牟礼八幡宮に行かれて、堀端の美しい桜の季節を撮って来られました。望遠を主体に静かな音楽で春ののんびりした雰囲気を出したとのこと。左義長の山車が橋の上を通るのが1回だけ出ましたが、これを増やして後半の盛り上げにしたら作品が長いと感じないのでは、というご意見もありました。

2) 八ヶ岳南麓名水紀行

森口 吉正さん 8分30秒

全国の各地の名水を訪ね歩いておられる森口さんの今回は、長野県と山梨県の間横たわる山脈の麓の湧水を撮って作品にしておられます。新緑に輝く自然の美しさを

交えて見事な作品に仕上がっていました。

3) 雄一さんの手打刃物

江藤 洋司さん 13分14秒

愛知県足助町で、総てが手作業で鍛冶屋をやっておられる「足助重光五代目」広瀬雄一さんに取材を申し込まれて作られた力作です。ご本人へのインタビューは勿論、奥さんからは薬師寺の宮大工が使った「やりがんな」の話や、息子さんからもお話を引き出しておられます。テレビがよくやる手法ですが、それだけではご自分の言いたいテーマを引き出すには無理があるのではないのでしょうか。手作業など沢山撮っておられるそうですから、お話中にそれらの仕事風景などを入れて訴求力を高めてください。立派な作品になると思います。

4) 仏像彫刻展

有村 博さん 7分50秒

仏像彫刻を趣味にしておられる皆さんが先生の指導のもと、出来上がった作品を年に一回発表しています。今年で28回目にもなる展覧会の会場で主に作品を中心にした撮影を行いました。後から教室で皆さんに見てもらえるような編集をしていますので、山場もなく長く感じられたのではないのでしょうか。

5) 津軽凍てる（改作）

河合 源七郎さん 5分12秒

先月発表された同名の作品を少し縮めて笛のBGMを変えて再発表されました。湖の蓮の葉氷や氷瀑など映像は迫力満点ですが、BGMでお悩みのようです。今回は武満徹の霊気溢れる音楽で、どうも合わないのではというご意見でした。「姫神」の「雪譜」というCDに合いそうな音楽があるように思うのですが、ご参考までに・・・。

6) 再び五箇山へ

増池 茂さん 8分30秒

富山県の五箇山へ行かれて詳細に茅葺きの里を撮ってこられました。落ち着いた画面で中々良かったと思いますが、ナレーションがバックの音楽の音量が高くて聞き辛かったのが残念です。もっともこの例会場での音はアンプに原因があるのか、或いはデッキなのか判りませんが良く聞こえませんが折角苦心して入れてきたナレーションがここでは綺麗に再生してくれない悩みがあります。「これ増池さんの声ですか」と

映写途中にお聞きした位ですから。

7) リトラルの海

山本 正夢さん 6分00秒

美しい日の出が海の彼方に出る所から始まります。南米ブラジルの海岸で釣りを楽しむ美しい映像が続きます。山本さんの作品はいつも珍しい土地で、ツアーでは絶対に撮れない被写体を紹介してくれます。私の家のテレビで見ましたら、その映像の美しさがより鮮明に描かれていて、大自然の雄大さを堪能しました。これからもどうかよろしく。

8) 黒い海苔

合原 一夫さん 14分58秒

九州有明海で海苔の養殖に取り組むご夫婦を描いた大作です。ご親戚の方ではないか、と思いますが、何回も取材に行かれて見事な作品に仕上がっています。元来黒い筍の海苔が黄色に変色して商品価値が下がる。原因は何なのか、これがテーマのようです。海苔の出来るまでの工程が事細かく説明されます。それもナレーションとテロップによって専門的に描かれますので、初めて拝見する側はついてゆくのがちょっと大変です。その仕事が大変だというのは充分理解出来ますので、もう少し簡略にして頂くと楽になるように思いました。このままですとそのテーマより海苔の養殖の工程の方がウェイトが高い様に思えました。

9) アユタヤ

森田 光春さん 7分30秒

タイの首都、バンコクから80キロ北に行った所に遺蹟があります。往年ビルマ軍と戦った有名なアユタヤ遺蹟だそうで、これを中心にしてその周辺に点在するお寺を取材しておられます。森田さんもまたツアーでは絶対に撮れない被写体を毎回見せて頂きます。お聞きしますとタイに別邸をお持ちで月の内何日はタイで海に潜り楽しんでおられるそうです。これからもよろしく。

10) だんじり競演

岡本 至弘さん 7分00秒

東大阪市の中心、近鉄布施駅前で毎年行われているだんじり大集合を、一般では入れない所に腕章をつけて撮ってこられました。周辺のだんじりが11基も集まったそうでその迫力は満点。アップ、アップの画面の連続で楽しく拝見しました。これでもま

だ5~6基程しか出てないそうで、再編集してまた見せてくれるそうです。それにしてもこの例会場でのプロジェクター映像は頂けません。特に赤が丸潰れで、折角の映像が台無しです。何とかしなければ、と痛感しました。

11) 光の中で

江村 一郎さん 4分45秒

新緑あふれるご自宅の周辺を玄光社推薦の移動式撮影機を駆使しての映像を撮ってこられました。江村さん独特の映像感覚で逆光のオーバー気味の映像が続きます。後半になると何故かまともな映像になります。ご自分の見せたい所を後半の盛り上げに利用して、温和しい映像を前半にもってきた方が良いのではないのでしょうか。

■映写設備について一考を 有村 博

皆さんの作品講評の中でも書きましたが、今の例会場での映写設備について一考して頂きたいように今回、特に痛感しました。誰でもそうですが、高い器材を駆使してより美しい映像を創作し、音楽、ナレーションも厳選してよりよい音で皆さんに見せたいというのが趣味の世界です。大画面迫力は映画やその他のエンターテイメントの世界に任せて、ご家庭で見る映像より勝れた映像、音声で発表したいのが私たちの願いのように思うのですが皆さんもそう思いませんか。

■良い方向へ向け努力していきましょう

5月例会で使用したプロジェクターは、前に使った人が色調整をいじくったらしく、赤の発色が少し異常でご迷惑をおかけしました。デッキ担当もまだ不慣れなため、最初の結線でも30分も費やしてしまい、色調整までチェックする余裕もなく開始してしまい、後で気がついた次第。次回は開始前にチェックするよう話し合っています。音もスピーカを前に向けざるをえない構造のため良い音が得られていません。そこで、ロッカー問題もあります。自前で取り揃えることを検討中です。結線も判り易いよう符号をつけるとか藤原世話役や関世話役と改善策を考えているところです。

大画面を見慣れてからは、今更テレビの小画面ではつまらないという会員さんも多いので、現状改善をして迫力ある大画面を楽しんで頂きたいと思います。 合原

◆遺稿（今月のエッセー）

物忘れ外来 故 安居 良枝様

この間、TVを見ていたら、大学病院に、こんな診療科が出来たと報じていました。年をとると物忘れがひどくなります。特に固有名詞が出てきません。夫婦の会話では「あの人がね。…」「ふーん、あの人がそうかいな」名前はお互いに出ませんがイメージは共有しているので会話に不自由はありません。しかし第三者となると固有名詞なしでは通じません。コミュニケーションが出来ないので困ります。

こうゆう物忘れでも、はじめはボケの始まりかと驚きますが、同年代の人との会話から自分だけじゃないということがわかって、ちょっと安心します。しかしアルツハイマーや脳血管性のボケの初期と見分けがつくかという全く自信がありません。

不安を抱えた人が多いのでしょうか。「物忘れ外来」が出来た由縁です。この診療科では、その区別をしてくれ、本式となると治療もしてくれるのだそうです。

寝る前になって、昼ごはん「何を」食べたか、咄嗟に聞かれて答えられない。でもこれ大丈夫なんですって。食べたか、食べなかったかが、わからなくなると要注意だそうです。小売店で買い物をして、何円ですと店の人にいわれて財布を出し、「ちよっと兄ちゃん指が悪いのでここからお金とって」小売店の兄ちゃんは気づかないですがこれは危ないそうです。何円という言葉と硬貨とが一对一の対応ができない、食べたか食べなかったかのレベルだそうです。本人に自覚がないので見つけるにしても、よほど身内でないと指の事までわかりません。ごまかす術を見破る能力もいります。でもこの段階で見つけることが大事だそうです。脳血管性ボケは血圧や血管の管理がよくなり、かなり減ったそうです。強い遺伝性は別としてアルツハイマーもある程度の予防はできるとか、身近な人が気づいたら物忘れ外来に相談する事、初期には薬もあるとの事です。

自分で出来る予防は何事にも興味を持って新しいことに挑戦しつづけるのがいいそうです。そういう意味ではビデオの趣味は最高です。撮影、構成、音楽、PCでの編集、脳は休む暇がありません。アルツハイ

マーも取りつくすべがないと思うのです。

遺稿に寄せて

例会ニュースも月によっては原稿が少なくスペースが埋まらず大変困ることがあります。そんな時には何人かの会員さんをお願いして寄稿していただきました。安居良枝さんにもお願いしました。そのときは「私は書くのが好きだから、こんなんでよかったら何時でもどうぞ」と仰せられて引き受けて下さいました。3月の初めにもお願いしました。良枝さんは快く引き受けて下さり、3月12日にメールで送っていただきました。しばらくして3月27日に「少し修正しました」といわれて、第二稿を送ってこられました。それがこの遺稿となってしまいました。

良枝さんのエッセーを例会ニュース4月号に掲載せさせてもらおうと思ったのですが、4月号は撮影会の連絡事項等でスペースが不足次号送りとさせてもらいました。5月号には載せさせていただこうと思っていたのですが、4月例会は出品作品が大変多く（16本）で講評だけでページが満杯になり、またも掲載できませんでした。そこで、6月号こそは必ず掲載させていただこうと思っていた矢先に訃報に接しました。

3月に送っていただきながら、4月号、5月号と良枝さんのお元氣な内に掲載することができずに本当に申し訳ないことをしてしまったと返す返すも残念でなりません。

こんなに早く逝ってしまわれるなんてとても信じられません。神も仏もないとはこんなことをいうのではないしょうか。

独創的で誰も真似の出来ない、素晴らしい感性の豊かな作品を発表し続けてこられた安居良枝様、もう二度と良枝様の作品を拝見できないという現実に、私は表現する言葉を見出すことが出来ません。

天国にビデオカメラを持って行って作品を作り続けてください。

どうぞ安らかにお眠りください。

広報 前田茂夫

■追悼文のお願い

次号以降、良枝さんに関する追悼文を掲載しますので、どうか原稿をお寄せ下さい。

会長 合原一夫